

《第3回 ICDアワード受賞者》

ICDアワードと私



昭和大学歯学部

鈴木 智子

この度は、国際歯科学士会ICDアワードを受賞し大変光栄に存じます。この賞は歯科学の技術及び学術を国際的に促進することを目的としておられ、私もそのような貢献ができるよう、努力してゆきたいと思いません。

私は、歯科学を国際的に促進するのに不可欠なのは、英語能力ではないかと考えます。小学生の頃、朝食前に10分間の英会話CDを母とともに聴きながら色々なフレーズを覚えたことが、私にとって国際活動の原点になったと思います。そして自身の英語能力を試すために、米国をはじめ、オーストラリア、台湾、香港、英国などを訪れ、現地の医療体制や文化を学ぶことができました。特に印象的だったのが、オックスフォード大学での授業で学んだ英国の革新的な歯科医療制度でした。

昭和大学歯学部に進学した私は、歯科薬理学研究室で自ら研究に取り組む機会を得ました。しかし、英語に多少なりとも自信があった私にとって、英語の原著論文に全く歯が立たず内容を理解できなかったことは大きなショックでした。自信を失いかけた私に教授は日本歯科医師会主催のスチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム (SCRIP) での研究発表 (英語) を勧めました。私は立ちはだかった「英語の壁」を本気で打ち破るつもりで発表に臨み、入賞をいただきました。

これらの経験を通じて私が思うことは、研究成果を英語で発信していくことが歯科学の国際的な促進に繋がるといことです。この4月から臨床研修医として大学の附属病院で学んでいますが、新しい歯科技術の多くが海外から導入されていることを知りました。また、私を指導してくださっている先生方が実験に取り組んでいる姿を見て、私も研修を終えたら大学院に進学して学問の視座を高め、歯科学の進展に貢献したいと思いました。

最後になりましたが、これまで親身になって指導してくださった昭和大学の先生方と、私を育ててくれた両親にこの場をお借りして厚く感謝申し上げます。



卒業式でのICDアワード表彰